

「古代地名検索システム」公開のお知らせ

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

このたび、古代の地名の漢字やよみを検索することができる「古代地名検索システム」を公開することになりました。御取材方、どうぞよろしくお願い申し上げます。

記

日 時：2015年12月11日（金）より公開

内 容：古代の地名を、漢字と読みから検索できるシステム。

結果一覧画面では、その地名が属する“国・郡・郷（古代の行政区画）”の全てと、そのよみを表示。（検索・表示例は別紙参照）

《収録データについて》

- ・『和名類聚抄』*（わみょうるいじゅうしょう） 所収の古代地名（国郡郷名）約4200件
* 平安時代中頃成立の辞書。源順編。古代の地名を網羅的に収録している。
この他、多くの言葉、事物事象について収めた、古代の国語辞典、百科事典ともいえる書物。
- ・現在のところ、下記の研究成果を参照して立項地名を決定。
『和名類聚抄郡郷里驛名考證』（池邊彌著、吉川弘文館、1981年）
『日本歴史地名大系』（平凡社、1979-2004年）
『古代地名大辞典』（角川書店、1999年）
- ・1つの立項地名に対し、古代の文献に使用された他の表記、および、『和名類聚抄』の各写本にみえる異種の表記も“異表記”として収録。検索・閲覧可。

URL：<http://chimei.nabunken.go.jp/>（検索・表示例は別紙参照）

*奈良文化財研究所ホームページ“データベース一覧”にもリンクを設置します。

※開発の経緯

木簡に書かれた地名とみられる部分の解読には、上記の『和名類聚抄』をはじめとする古代の地名に関する書籍媒体の辞典類に一つ一つあたるしかなかった。特に欠損や汚損によって見えにくくなった木簡を解読する際に、かろうじて解読できる一文字だけをたよりに、書籍媒体で検索することは非常に難しい。そこで、これらの地名をデータベース化し、その文字を含む地名の候補を一覧できるという、解読の支援になるようなツールとして考案した。この研究を契機とし、今回、広くみなさまにお使いいただけるよう、WEB検索用ページを作成した。

※今後の研究課題と見通し

現在の収録範囲は、『和名類聚抄』および上記の研究成果の範囲であるが、今後、さらに多くの文献資料と木簡に記載される地名を収集し、研究・検討して収録をすすめる予定。

→これまで研究の対象とされてきた、文献に残る地名だけでなく、木簡で実際に使用された地名の具体的な研究が可能に。

※期待される効果

地名には、その土地に長く伝わる独特なものが多い。自分が住んでいる場所や、身近な地名を検索することで、その地名のルーツをさぐる手段にしてみようなど、地名に興味をお持ちの方々に、気軽に利用してもらえることを期待している。

本開発は科学研究費補助金基盤研究（S）「木簡など出土文字資料の資源化のための機能的情報集約と知の結集」（2013年度～2017年度（予定）研究代表者：渡辺晃宏）による研究成果である。

「古代地名検索システム」検索画面例、および検索方法

URL <http://chimei.nabunken.go.jp/>

(※奈良文化財研究所HP“データベース一覧”にもリンクを設置します。)

1. 検索画面



2. 結果一覧画面

検索語の部分が赤く表示されます。

左から、国・郡・郷名の漢字表記と読みが表示されます。

また、それぞれの表記の右側に異表記ボタンが表示されます。



異表記ウィンドウ
異表記ボタンをクリックすると、ウィンドウが開きます。

さらに気になる地名をクリックすると、その文字列で再検索することができます。